



2.3の出会い

慰霊の地、鎮魂と永遠の平和を祈る場所。ここには、透き渡る青空、昇り立つくっきりとした白い雲、まばゆい太陽、照らされる深い緑の木々、戦没者の心とこの地に託した今の思いを包む豊かな沖縄の自然が広がっている事に、訪れる人は直ぐに気が付くはず。ウェルカムルーフは、この地を訪れる人たちが初めに目にする施設となります。

「2.3」は高さを表していて、バスのシートに座っている人の目線です。

バスが着き窓に目を向けると、そこには慰霊の地の風景が広がります。目線に張られたウェルカムルーフは一本の線としてしか存在しません。あたかも水平線・地平線のように、そして未来（生）と過去（死）の境界のように。席を立ちバスを降りれば、ルーフ全体は認識されますが、乗り付けたバスの席を立つまでのひと時、ルーフは一本の線となり訪れる人を広げる風景が包み込むのを邪魔しません。このひと時を大切に設計したい。膜とカーボンワイヤーと最小限の鉄骨部材で出来たこの提案は、極限までシンプルに構成されたデザインです。

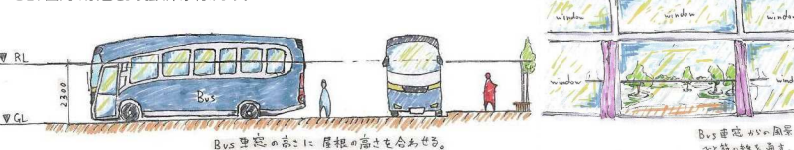
聖なる鎮魂の土地をかき乱さず静かに工事し、慰霊の時の刻みを妨げたくない。土地を削らない、掘り起こさない、柱をスツと刺すだけのシンプルな工法を採用しました。

◆平和の土地、その情緒への向き合い、屋根空間へ存在



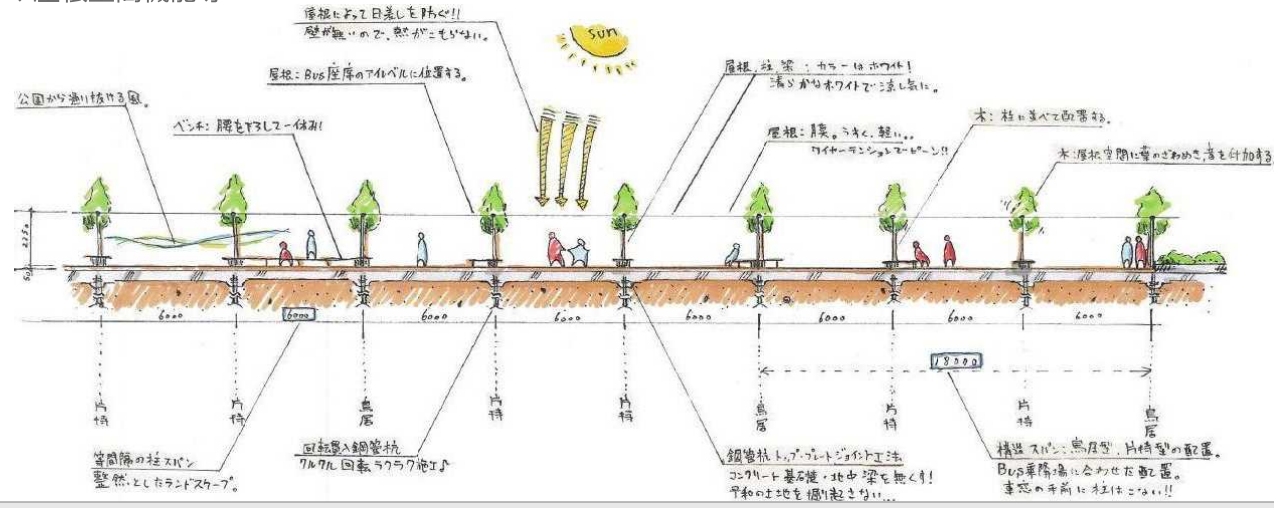
◆風景へのアプローチ

観光バス乗降シェルターとしての機能を維持し、風景へのアプローチを行う計画。屋根の高さをバス乗降者座席の目線の位置に据えます。これにより来訪者の視界には、存在するが、存在感を極限まで薄くした一筋の線として屋根が写り込み、その直線的な外観を奥に広がる風景との奥行にマッチさせ、園内の景色をより強く印象付けます。

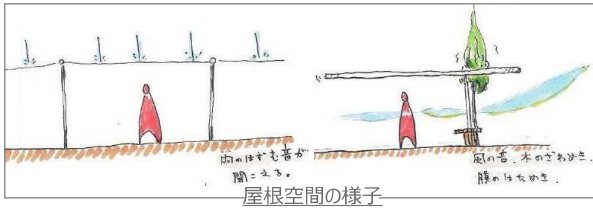


◆屋根空間の配置

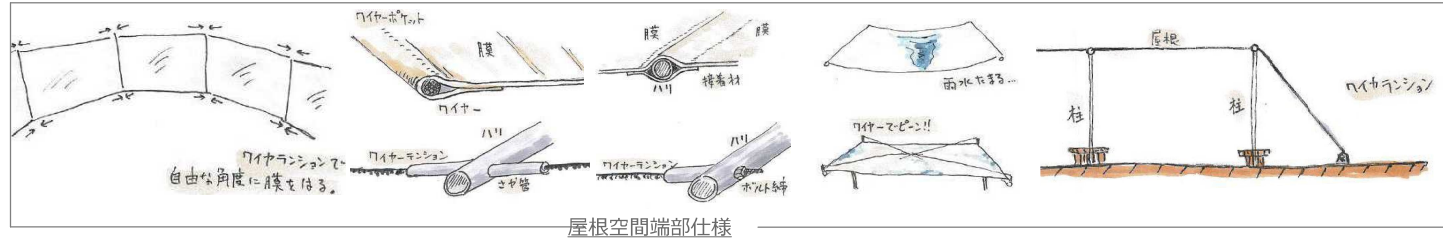




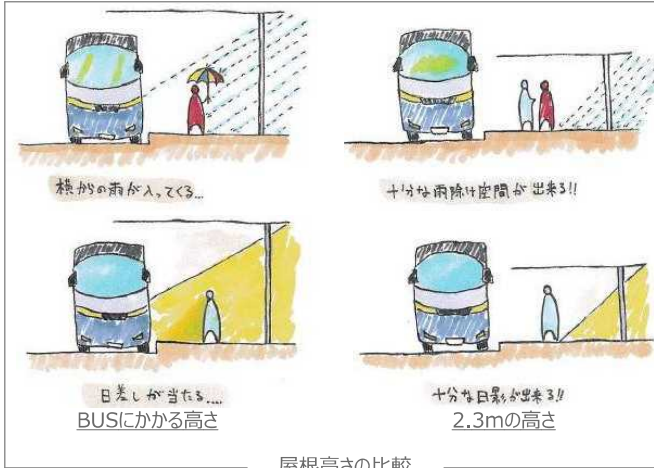
◆機能検討比較・施工検討・納まり詳細



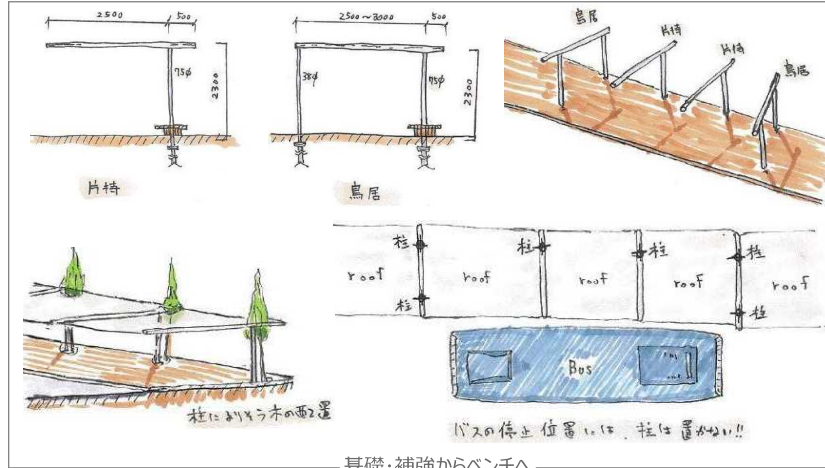
屋根空間の様子



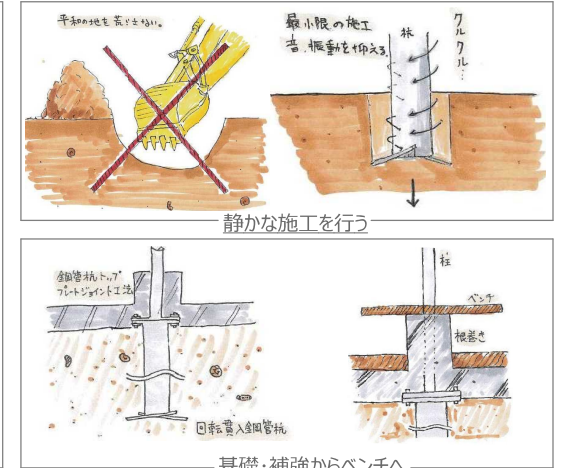
屋根空間端部仕様



屋根高さの比較



基礎・補強からベンチへ



基礎・補強からベンチへ

